



詩集
Moon Lovers
IX

たかはしみどり

Moon Lovers IX

たかはしみどり

ここは暗黒の国
何の希望もない
何の助けもない
人の心には悪しかない
黒い朝がまた訪れる
君はこれから闇を見守り
光を見ることはないだろう
残された選択肢は死か破滅
傷つきボロボロになるがいい
青い星など何処にもない
邪魔な理想や希望は
早く忘れて賢くなれ
人を騙し 人を傷つけ
誰よりも強く 人の上に立て
愛や同情などありはしない
友は裏切れ 信じるな
邪魔なものは排除せよ
そして笑うのは愚か者

未来へ

僕たちは過去ではなく
未来を選んだ
死んだ者に成長はない
何の発展も未来もない
僕らは彼らを追い越していく
過去を見るのはやめよう
今 君の目の前にいるのは僕だから
今を見つめて 今を愛して

僕たちは今を生きてる
未来へ向って
すれ違っては絡み合う
何本もの糸を手繰り寄せ
こうして出会った僕たちは
いつかまた別れていく
過去を見るのはやめよう
今 君が手にしている真っ白な本を
僕たちの未来で埋めていこう

坂の途中～かぐや王子～

今夜 月までの道が 姿を現す
月へ帰る 坂の途中
あの人のまなざしが蘇る
優しく触れるようなあの瞳に
いつも包まれていたことを思い出す
出逢ったのは 偶然だった
今 さよならも言わず 離れていく僕を
君は許してくれるだろうか
月に着いたら きっと言える
見つけてくれて ありがとう
いつかまた会える日まで
涙は心に溜めておこう

いつか 帰ろう
ぼくたちがいた
風の故郷へ

ずっと昔に 聞いた話
“風はここで生まれるんだよ”
今 ぼくたちの住む この街に
心地よく吹く 優しい風は
懐かしい匂いを運んでくる

いつか 帰ろう
ぼくたちが育った
風の故郷へ

いつかだれかに 聞いた話
“風はここに戻って来るんだよ”
今 ぼくたちの住む この街に
そっと頬を なでてく風は
遠い思い出を運んでくる

いつか 帰ろう
ぼくたちがいた
風の故郷へ

愛の歌

言葉にしてしまった その瞬間に
すべてが嘘になりそうで
君を不安にさせていると知りながら
口にすることができなかった
君に伝えようとしたけれど
言葉は風にさらわれた
だから歌おう 愛の歌

夢の中では言えるのに
夢から覚めると怖くなる
君は何かを決意した目で
おびえるように話しかけた
僕はその言葉さえ
聞こえないふりをした
だから歌おう 愛の歌

シークレットガーデン

そこはまだ 誰も見たことのない
遠い昔にあったと言われる楽園
シークレットガーデンへの道を
知る者は誰もいない
ただ一人 僕らにその道を
示す者がいたという
夜と朝の狭間に降った
星に乗ってきた少年
彼は道しるべとなり
ほんの数人に伝えていた
今 ぼくたちは導かれ
その道しるべを探し当てた
夜が満ち 闇が深くなった頃
月が示す場所に 舟を浮かべたら
風が運んでたどり着いた場所が
ぼくたちの目指す シークレットガーデン

スペアキー

背を向け合っているにも
なぜか君が分かる
背中に君を感じるだけで
なぜか心が安らぐ
心で語り合えることを
初めて知った夜
僕の心のスペアキー
持っていたのは君だった

夜の海

お前はなぜそんなに静かなのだ

お前はなぜそんなに穏やかなのだ

海よ もっと荒れ狂え

波よ もっとしぶきを上げろ

どうか 私を飲み込んで

海の果てまで連れてゆけ

もしも私が怯むなら

するりと逃げる 私を捉え

私を亡き者としておくれ

詩集Moon LoversIX

<http://p.booklog.jp/book/97994>

著者：たかはしみどり

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/midri7911/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/97994>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/97994>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ